大人
ほきめたるえ

「校訓とともに」

じぶんから　みんなと　いっしょうけんめい

子ども
のやびれるば

長崎市立外海黒崎小学校
令和４年度学校だより
令和４年 11 月 9 日(水)
校長　溝　川　　浩

～秋からいつの間にか冬の寒さに～

冬到来を思わせる朝を迎える今日この頃です。日中の強い日差しも次第に弱まり、朝夕の肌寒さが厳しくなりました。10 日前までのクールビズが嘘のようです。冬の到来を、周囲の山、時折吹く風、人々の装いから少しずつ感じます。先日、私は、朝の立哨で思わずコートを着用しました。

さて、明日 10 日午前には、１～４年生 33 人が小音会に出場します。長崎ブリックホールにて２曲を合唱し、校訓どおりの姿を披露してまいります。ご家庭、地域でどうか応援ください。

いつの間にか長い２学期も後半となりました。学びと成長を続ける児童 45 人にとっては、知・徳・体のいずれも最も伸び盛りのシーズンです。コロナとインフルエンザの同時流行が案じられる時期でありますが、今こそご家庭での健康対策に努める時です。近隣の学校では、陽性確認者が急増するなど予断を許しません。これまで同様、安全で安心な暮らしの確保を学校と家庭で努めてまいりましょう。

海外の国から見た日本の教育のいいところ

かつて私が欧州研修に参加させていただいた折、遠く離れた国で日本の教育をじっくり見つめ直す機会を得ました。私にとってはとても貴重な体験であり、今でも当時の学びが学校教育で活かすことができています。欧州から見た日本の教育のよさについていくつかご紹介いたします。

挨拶…授業の終始、食事での挨拶は、相手や物に感謝をする心を育むうえでとても大切。

整列…集団で行動するときには安全と安心を確保するうえでとても大切。

掃除…自分の生活環境を自分たちで清掃することは公徳心を育てるうえでとても効果的。

靴並べ…靴を脱いで屋内に入るといった「次の行動」を意識して整頓する文化はとても合理的。

上に紹介した４つは、私たちにとって当たり前の文化ですが、海外では馴染みのない生活習慣です。ところが、ここ最近になってこのような生活習慣が見直されはじめており、フィンランドでは、学校教育において導入するようになっているとのことです。個性尊重を重視する欧米文化は、我が国にとってある意味憧れとも言われますが、個性尊重が時に「相手の気持ちを意識した態度の差」としてマイナスに働くことがあるということです。私たち保護者、教員、住民が日常的に子供たちにしつけていることは全て「相手（次使う人）の立場になって」が根っこにあるいわゆる「思いやり」「配慮」の精神を育む営みであり、それが海外から高く評価されている我が国の教育なのです。教育する場所は学校、家庭、地域の３つに分類され、協調して生活習慣をしつけることを外海黒崎小ではがんばっていけたらと思います。

本校児童の上記４つの生活習慣は平均してレベルの高いものです。家庭教育に敬意を表します。強いてあげるなら靴並べが課題です。ご家庭でのご確認とご指導をお願いいたします。

11/7(月)に小音会出演を励ます会を行いました。

当日不参加の５・６年生による会の催しはとても温かく、アットホームな雰囲気の中でエールを送る言葉や合唱の披露を行いました。

１時間目の授業開始前の時間を使い、宮上・濵口両先生の伴奏と指揮のもと、まさに毎日少しずつの努力を重ねてまいりました。励ます会での合唱を聞いて、観て、33 人の一生懸命に感動した溝川です。

子供たちの合唱につきましては、別の機会に保護者や住民の皆様に披露できたらと思っています。

～令和に生きる子どもたち～

６日日曜日、全日本大学駅伝が TV で放映されました。幼い頃から走ることだけが嫌いでバスケを中学から 40 才までしていた私は、こと駅伝を観ることは好きで、今でも TV 中継に見はまってしまいます。

この前の駅伝では駒澤大学が優勝し、常勝チームの青山学院大学が３位と惜敗。その時、原監督のコメントが教員の私にも共感を覚えるものでした。上位４校が大会記録を上回る展開に、原監督は「駅伝界の新時代幕開けを感じた。強化方法、練習メソッド、駅伝に向かう姿勢。各大学が新しい駅伝に突入した。」と。

平成に生まれ令和に生きる今の子どもたちがおかれた環境は、昭和・平成に生まれ育った私たち世代とは大きく異なるということです。

★指導に従うだけでは、真の成果は生み出せない
★目的を明確にもち、自分の責任で事に当たる
★自分の力をしっかり捉えよりよい方法で力を伸ばす
★仲間との協力、協調、共生はとても重要な生きる力

今の若者には、自己決定、共感する力、自己存在感の育成が重要なキーワードと改めて学びました。